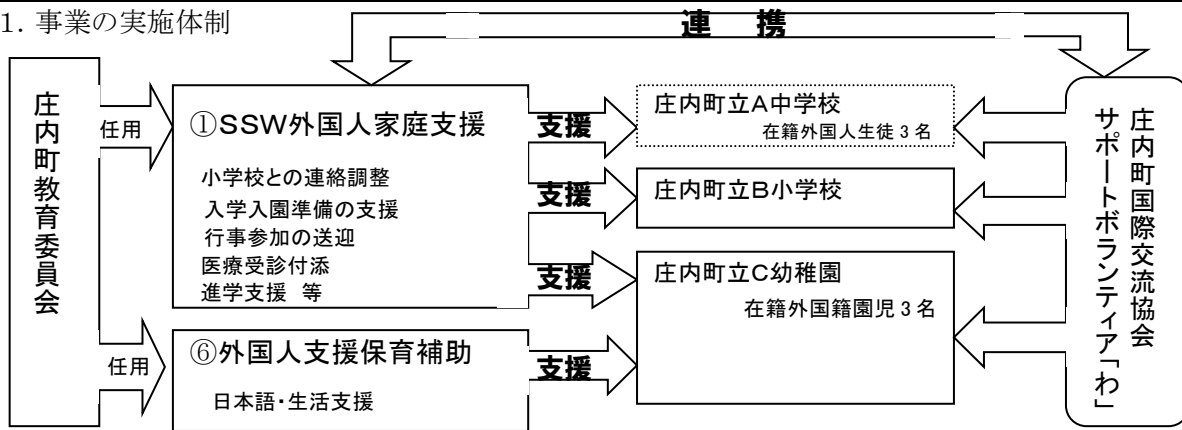


令和3年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (Ⅱ 外国人の子供の就学促進事業)
 事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 庄内町 】

令和4年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること

①不就学等の外国人の子供に係る学校等との連絡調整

- ・町任用SSWが外国人家庭支援として2時間×週1回×40週活動した。町立余目第二幼稚園を中心に、余目第二小学校、関係園児の家庭等に派遣。在籍外国人園児の通園支援と、小学校入学に向けた連絡調整や家庭支援を行った。
- ・園と家庭とをつないで、入園準備、必要物品の調達、通園のサポート、医療受診の送迎、園と家庭、関係機関やボランティアとの連絡、園と小学校との連絡等の支援を11カ月にわたりきめ細かく行った。

⑥不就学の外国人の子供を就学につなぐための幼稚園在園児への日本語支援と生活支援

- ・保育補助員1名(6時間×209日)を幼稚園に配置し、外国人の子供に対して、幼稚園内で日本語支援及び家庭との連絡を含めた生活支援を行った。幼稚園に在籍する2か国 3名の外国人園児の支援を内容とした。
- ・キスタン人2名は、これまで完全に自宅内のみで生活していたため、日本語が全くできず、集団生活も初めてだったため、当初2人一緒に年中クラスで、一つ一つの活動の仕方を身振り等で丁寧に伝えながら支援した。
- ・2学期になると、年長児は多少日本語に慣れてきたため、本来のクラスに分け、両方の様子を見ながら必要に応じて支援した。遠足や水泳、運動会等、家庭での特別な準備が必要な活動や行事に向けては、SSWと連携して取り組んだ。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること

①について ・外国人園児3名が、遠足、水泳、運動会等の行事にも参加し、コロナ禍で制限があったものの、関わりの中で、豊かな体験をすることができた。

⑥について ・不適応等を起こさず無事に1年間園生活を継続でき、日本語や集団生活に慣れることができた。

以上の結果として、令和4年4月から、2名の外国人就学児が小学校に確実に入学できる見込みとなった。

【課題】幼稚園に関わる支援が予想以上に必要であり、中学生以上の支援は、①の範囲ではできなかった。

	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳以上 (過年齢)
本事業で対応した子供の数	3人	人	3人	2人

4. その他(今後の取組等)

令和4年度は、今年度就学児である男児1名の小学校入学が確実となるよう、引き続き日本語と生活の支援、園と家庭との支援を継続する。さらに、令和5年度に幼稚園入園年齢となる女児1名が、入園し日本語や集団生活になれることができるよう、家庭への働きかけを新たに行っていく。

- ※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。) 成果物等があれば別途提出すること。
- ※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き文部科学省ホームページで公開する。